

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		地すべり防止		路河川名等		—	
事業毎の通番		1		市町村名		長野市	
事業目的		当該地は、林務所管の地すべり防止区域(中田)内にあり、過去には長野野林局により複数の既設構造物(谷止工)が施工されている。H26年4月に、融雪及び豪雨の影響により、新たな山腹崩壊が発生した。崩壊地の周囲では、クラック、滑落崖などの変状が広範囲で確認されており、今後の降雨等により下方保全対象に影響を及ぼすおそれがあるため、地すべり対策工を実施することにより、県民生活の安全・安心の確保を図る。		箇所名(ふりがな)		峠向(とうげむかい)	
しあわせ信州創造プランにおける位置付け		4-1地域防災力の向上(災害に強い森林づくり)		事業実施の根拠法令等		地すべり等防止法	
関連する事業、計画等							
保全対象・範囲 受益対象・範囲		人家 8戸、県道 200m、市道 300m					
着手年度		平成27年度		事業期間		5年間	
完成年度(見込み)		平成31年度		費用対効果		1.63	
全体事業内容(主な工種)		谷止工4個 山腹工0.32ha 土留工6個、ホーリング暗渠工ほか		事業費(千円)		169,000	
年度事業内容(主な工種)		調査・測量設計		国庫		84,500	
事業効果		直接的効果(定量的・定性的)		県債		76,050	
		間接的効果(定量的・定性的)		一般財源		8,450	
必要性		○人家戸数:		8戸		保全対象	
		○公共施設数:		2ヶ所		県道、市道	
		○保安林・林業用施設:		なし		なし	
重要性		○過去の災害履歴:		あり		H26.4月融雪災	
		○交通遮断による地域経済への影響:		中		崩壊土砂流出により県道へ影響	
		○地域防災計画上の位置付け:		なし		なし	
効率性		○費用便益比(B/C):		1.63		評価	
		○事業期間:		5年		H27~H31	
		○工法等の比較検討:		なし		調査結果を踏まえ検討	
緊急性		○地すべり滑动度:		顕著な動きあり		新たな亀裂(幅20cm)あり	
		○地すべり変状:		変状あり		新たな滑落崖(H=1m)あり	
		○下流の堰堤等の整備状況:		あり(概ね満砂)		あり(概ね満砂)	
計画熟度		○事業情報の共有:		なし		関係者と現地調査を実施している	
		○地域の取り組み:		長野市、期成同盟会から事業計画に対し要望がある		なし	
		○地域の合意形成:		事業目的については合意が図られている		なし	
		○住民との協働:		維持管理について住民協働を計画		なし	
部意見		H26年4月に地すべり性崩壊が発生した。放置すれば拡大する恐れがあり、下方に人家等があることから、対策を行う必要がある。		行政改革課意見		新たな滑落崖、亀裂があることから、緊急性が認められる。	
				評価結果		総合評価	
				○		B	

位置図

平面図

山腹崩壊地の冠頭部

周辺の滑落崖

周辺のクラック

山腹崩壊地の全景

複数箇所で地すべり性と思われる崩壊が確認しているため、規模の把握及び対策工法の検討のため初年度に調査を行う

冠頭部及び中腹部に湧水有り

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該地域は、典型的な第三紀層地すべり地帯(泥岩)であり、非常に脆弱である。さらに、年間降水量(1,627mm)も多く、過去にも多数の土砂災害が発生したことから、下流には治山堰堤が複数設置されている。H26年4月の融雪により、新たに山腹崩壊が発生するとともに、周辺では新たな滑落崖やクラックが発生しており、拡大崩壊するおそれが高い。また、渓床内には不安定土砂が堆積している。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	長野市と鬼無里小川流域地域期成同盟会から事業要望があり、平成26年6月6日に地元県議員、長野市、同盟会役員等と現地踏査を実施した。
③事業説明等の経緯	地すべり性の崩壊であるため、今後、詳細な現地踏査を実施した後、具体的な対策工事内容について地元説明会を開催する予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	工事に伴う地形改変を極力少なくする。また、木工沈床工等の県産材を活用した工法を積極的に採用する。
⑥地域活性化への影響と配慮	
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度	北緯:N	36° 42'
	東経:E	138° 02'